

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区靴屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<https://www.town.taka.lg.jp/library/>

「わらべうたと子ども」

姫路おはなしの会 原三恵子

昨年11月に「手あそびとわらべうた講座」にお招きいただき、皆様と楽しい時間を過ごさせていただきました。

私は、昭和29年に大阪梅田の近くで生まれました。戦後のベビーブームのお陰で、町内には沢山の子どもがいて、毎日皆で身体をいっぱい使って遊びました。中でも大人気だったのは、10人以上で遊ぶ「探偵・盗人ごっこ」でした。組分け歌は、ズラリと並んだ子どもたちが真剣に見守る中で、探偵組と盗人組の親分が歌い、子分を選び取っていきま

す。ルールの分からない小さい子は、大きい子たちと一緒に走り回れるだけでも楽しそうでした。毬つき、縄跳び、あやとりなど遊びの中にはいつも歌があり、友だちがいました。そして、私の大好きな本もまた、子ども時代の大切な友だちでした。

そんな私が、縁あって姫路で、乳幼児と保護者向けに毎月2回「わらべうたと絵本の会」をさせていただくことになり、もう20年が経ちました。初めは、毎回いろいろ準備をし、どうなるかと試みる日々でしたが、わらべうた遊びを楽しみながら、ゆつくり成長してく子どもたちの姿に、逆にいろいろなことを教えられるました。



幼い子どもたち(特に赤ちゃん)は、わらべうたをとて集中して聞きます。何か不思議なことでも聞くように、じつとこちらを見つめながら、手足を動かし、声を出して反応し、やがて表情豊かに笑ってくれるようになります。そしてだんだん、お母さんだけでなく、他の人たちとも一緒に遊べるようになっていきます。その生き生きとした笑顔を見ると、「人間の根っここのところに、きつと何か大事なものが育っている」。そんな気がしてならないのです。

子どもたちのために大切に伝承されてきたわらべうたを、これからも、大事に手渡していけたらと願っています。

言の葉だより

子ども心を持ち続けた女性 ルース・スタイルス・ガネット編

図書館を訪れる小さなお客さまから「エルマーの本はありますか?」と聞かれることがあります。タイトルは『エルマーのぼうけん』。9歳のエルマー少年が、年とったのら猫から「どうぶつ島」に捕らえられた子どものりゅうの話を聞き、助けに行こうと決意するところから始まります。小さなエルマーが獰猛な動物たちから上手に逃れ、りゅうの子が繋がれている川を目指す様は、子どもも大人もドキドキハラハラします。

作者のルース・S・ガネットは1923年、雑誌の記者をしている両親のもとに生まれます。3歳から通った学校では、子どもたちが作ったお話を先生が書き留め、あとで読んで聞かせてくれるという、ユニークな授業がありました。ルースはそのころから、自分のお話が文字になってゆく喜びを知ったそうです。

大学卒業後、アルバイトをしていたスキー場で退屈しのぎに書き始めたのが『エルマーのぼうけん』でした。できあがった作品を、父と、父の再婚相手の義母に見せたところとても好評で、出版社に持ち込むと書籍化が決まります。挿絵を担当したのは、それまでも絵本の挿絵を描いていた義母で、後に夫となる画家のピーターも地図や文字を描きました。家族の協力を得て作った本は好評を博し、続く『エルマーとりゅう』『エルマーと16ぴきのりゅう』とともに、今なお世界中で愛されるベストセラーとなったのです。

しかしルースは「作家になりたいと思ったことは一度もない」と語っています。「エルマーを書いたのは、子どものころに知った、物語を作る楽しい時間を過ごしたいと思ったから。言葉にすれば、ないこともあることにできる。わたしには、物語を書くことは『楽しみ』で仕事にはならないの」だと。

エルマーはわたしなの。子どものころ、やりたいと思いながら我慢していたことをエルマーにやらせたの。

— 『エルマーのぼうけん展』より —

ルース・S・ガネットさんに関連するクイズです。

- I. 父親と仲が良かったある作家は、ルースが語るお話を書き留め、挿絵をつけてくれたこともありました。それは誰?
- ①ワンダ・ガアグ ②ガース・ウィリアムズ
③エリック・カール ④アーノルド・ローベル
- II. 6歳のとき、リンゴの木から落ちます。何の上に落ちた?
- ①葉の束 ②枯れ葉 ③ブタ ④カゴ
- III. 牧場でアルバイトをしていたとき、ある動物に人工呼吸をしたそうです。その動物とは?
- ①ウシ ②ウマ ③クマ ④ヒツジ
- IV. 小学生の時から好きで、大人になってもしていたことがありました。それは何?
- ①人形遊び ②土いじり
③大工仕事 ④作曲
- V. 子どものころからの夢は?
- ①記者 ②教師 ③冒険家 ④母親業
- 【こたえ】は左下にあるよ

【参考文献】
『「エルマーのぼうけん」をかいた女性 ルース・S・ガネット』前沢明枝／著(福音館書店)
『エルマーのぼうけん展』(ブルーシート)

◆◆◆ 多可町図書館カレンダー ◆◆◆

— 1月 —						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

●臨時休館(室)のお知らせ
多可町図書館ではICTを活用したサービスを導入するため、下記のとおり臨時休館(室)をさせていただきます。皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

休館(室)期間
加美・八千代図書室 令和7年1月4日(土)～2月10日(月)
多可町図書館 令和7年2月1日(土)～4月2日(水)

休館日

【こたえ】I・① II・③ III・③ IV・③ V・④

多可郡中学生 理科自由研究作品展

10/10～24



今年も約2週間、図書館の学習室で作品を展示しました。毎年のことながら力作揃い！柔軟な発想でテーマを取り上げ、観察・研究されていました♪

講演会

10/20

「100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集」を発行された福井県立図書館より司書の宮川陽子さんを講師にお迎えし、「一生使い倒す！図書館の上手な使い方」と題してご講演いただきました。図書館のカウンターに利用者から寄せられる、タイトルや著者の覚え違い、これを愉しむつつ、司書やレファレンス業務について、どのような仕事なのか、その意義とは何なのか、ということをお話いただきました。インターネットでは検索サイト側が見てほしいアカウントやコンテンツが上位に表示されるなど、検索結果が操作されているのに対し、図書館では信頼できる情報源、あるいは情報の責任所在が明確な本から調べて質問にお答えします。お探しの本や知りたい情報についてのご質問、いつでも受け付けています。図書館をお気軽に便利にご利用ください！



クリスマスイベント 12/14

◆雑誌付録抽選会

令和2年から実施している雑誌付録の抽選会。11/1～12/8までに20冊の本を借り、希望された方に抽選券を配布しました。応募総数 251 名。当選者数 51 名。たくさんのご参加ありがとうございました。

◆クリスマスおはなし会

大型絵本やパネルシアターなど、おはなしサークル「あいあい」さんによる楽しいおはなし会。参加者には絵本カバーでつくったうちわをプレゼントしました。



読み聞かせ講座

10/31



子育てふれあいセンターと共催で、読み聞かせ講座『絵本は魔法？』を開きました。講師は、丹波篠山市で24年間文庫を主宰されている今西茂子さん。心ある作家が子どもの幸せを願って作った良書は子どもを惹きつける力があり、そこでであった言葉が現実と絵本を行き来することで、子どもは少しずつ成長していく、と教わりました。また身近な大人が読んであげることで絵本に命を与えることができるといった話もあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

手あそび&わらべうた

11/2



「姫路おはなしの会」所属の原三恵子さんを講師に、昔から伝わる手あそびやわらべうたを学びました。手あそびやわらべうたには、心地よい響きがあり、くり返すことで小さい子どもたちに安心感を与えます。講座では、原先生の歌うリズムに合わせて顔あそびや2人1組で楽しむわらべうた、参加者全員で輪になって楽しむわらべうたなど、たくさんの種類を教えていただきました。わらべうたや手あそびの持つ魅力に触れる貴重な時間となりました。

◆フルート奏者深田玲功さんによる クリスマスミニコンサート

図書館の中を深田玲功さんが奏でる美しいフルートの調べが、吉田律子さんによるピアノ伴奏と共に響き渡りました。コンサートには60名を超える多くの方にご来館いただきました。



大人から子どもまで幅広く楽しめる曲を演奏いただき、館内を優雅なひとときにかえてくれました。

図書館 NEWS

— 10～12月 —

東京都葛飾区にある日比野豆腐店は、最寄り駅から徒歩5分のところにある、家族経営の小さなお店です。1丁400円のものから少し手頃な定番商品、揚げ、がんもどきを扱っています。豆腐好きには「何もつけなくても十分大豆を味わえる」と好評ですが、スーパードリンクのものは格段に高いこともあり、店を訪れる客は日に30人ほど。78歳の初は、自分が生きているうちに店を畳むことを考えながら、これまでのことを振り返っていました。

小さいながらも順調だった店が暗転したのは4年前のこと。3代目でひとり息子の清道が、コロナウイルスに感染し50歳で亡くなったのです。閉店の危機に見舞われますが、嫁の咲子は夫が愛した店を守りたいと会社を辞め、豆腐づくりに加え新たな卸し先探しにも奮闘しています。高校2年生でマイペースな孫の令哉も、「この豆腐が食べたい」と足を運んでくれる客との触れ合いや周囲の人たちから刺激を受け、将来のことを真剣に考えるようになり…。辛い出来事を経てなお誠実に生きる家族と、店を訪れる客との温かい交流を描いた物語です。(あ)

仕事に追われ、読書や趣味に時間を割くことができないと感じる人は多いのではないのでしょうか。一般的には、長時間労働によって「読書の時間」を奪われたと考えがちですが、実際には、長時間労働自体は昔から続いており、現代に始まったことではありません。この苦しみは、いかにして生まれたのでしょうか。

明治時代以降、時代ごとに変化する日本の働き方と読書の関係を振り返りながら、「なぜ現代では労働と読書が両立しづらくなっているのか？」という問いに答えを導き出しています。書籍には歴史的背景やさまざまな文献が引用されており、本好きの方にも楽しめる内容です。本から得られるのは、インターネットで手に入る「情報」ではなく、読書を通じて得られる知識の中に潜むノイズや偶然性です。読み手が予想していなかった展開や知識が登場することにワクワクしてみませんか。疲れてスマホばかり見てしまいうあなたにこそ、ぜひ手に取って欲しい一冊です。

あとがきには、働きながら本を読むコツも紹介されており、最後まで楽しんで読める内容になっています。(よ)

ちいさな男の子アンドルーシクが4つとき、カチューシカおばさんが大きな船にのってやってきました。ある土曜日の朝、おばさんはけしつぶクッキーをやってかまどから出し、テーブルの上に並べました。そして市場へ行ってくるあいだ、子猫や犬を近寄らせないように、とアンドルーシクに言いました。

「はい、よくわかりました！クッキーを見張っています」と調子よく答えたアンドルーシクでしたが、留守番のあいだにいたことは、ふかふかの羽ぶとんの上でびよんびよん飛び跳ねることだけでした。

ちいさい女の子エルミンカが4才半のとき、アントンおじさんがやってきました。おじさんが弟にくれた赤いブーツをエルミンカはとても気に入って、自分がはくことにしましたが、かもにつつかれ池に落ち、泥水でぐしょぐしょになってしまいました。

アンドルーシクやエルミンカ、そしてヤギや犬、がちょうたちが巻き起こす騒動に、大人たちは寛容です。幼い子の日々の出来事を物語に仕立てあげた、楽しさのつまったおはなし集です。(り)

Book Menu

『日比野豆腐店』



小野寺史宜/著
徳間書店 (Fオノ)
ジャンル：小説

『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』



三宅香帆/著
集英社 (O19ミ)
ジャンル：実用書

『けしつぶクッキー』



マージェリー・クラーク/作
童話館出版 (K933ク)
ジャンル：児童書

多可町図書館からのお知らせ

休館(室)期間
加美・八千代図書室: 令和7年1月4日(土)～2月10日(月)
多可町図書館: 令和7年2月1日(土)～4月2日(水)

①図書館システムの更新に伴い、平成27年以降、使用されていない図書館カードは4月3日以降使用できません。それまでにカード更新いただくか、4月3日以降、再度カード発行のお手続きをお願いいたします。

②システム更新のため図書館ホームページが停止します。2/3～10の間、本の検索等ができません。ご了承ください。